

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ウ	国際交流拠点の形成に向けた基盤の整備			
施策	①国際交流拠点形成に向けた受入機能の強化				
(施策の小項目)	○交流拠点施設等の整備				
主な取組	Jリーグ規格スタジアム整備事業	実施計画 記載頁	346		
対応する 主な課題	○国内外の各地域において、MICE誘致競争は年々拡大している中、既存施設では収容が不可能な1万人規模の会議開催案件も発生しており、国際的な交流拠点施設の整備が必要である。加えて、案内板の多言語表示化をはじめとした外国人の受入環境整備にも取り組む必要がある。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容	Jリーグ規格のサッカースタジアムを整備し、沖縄県のスポーツ及び観光振興に寄与する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	基本構想	基本計画	実施計画	基本設計	実施設計	平成32年 供用予定	県 市町村
	担当部課	文化観光スポーツ部 スポーツ振興課					

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
—	—	—	基本計画策定を予定していたが、平成25年2月に那覇市が奥武山陸上競技場をJリーグ規格のサッカー専用スタジアムへ建て替える方針を表明したため、調整等を要する状況となったことでやや遅れとなった。整備のあり方について、那覇市と意見交換を行った。	—
活動指標名			計画値	実績値
—			—	—
推進状況	平成25年度取組の効果			
やや遅れ	那覇市における整備計画等を確認し、意見交換を行い、沖縄県のスポーツ及び観光振興に寄与する施設をいかに整備していくか、整備の主体及び方法等について那覇市と連携し検討を進めた。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
—	—	那覇市の計画が先行していることから、実施計画に代わり那覇市と連携し、施設整備が行われるよう支援のあり方等についての検討を行う。	—

(3) これまでの改善案の反映状況

那覇市の整備計画を確認するとともに、沖縄県のスポーツ及び観光振興に寄与する施設をいかに整備していくか那覇市と意見交換を行った。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	平成25年度以降の事業については、那覇市においてJ1公式戦が可能なスタジアムの整備を表明していることから、施設の効率的な整備等について引き続き那覇市と調整を図っていく必要がある。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

・狭い領域に2つのスタジアムが立地するという状況は避けることが望ましいと考えるため、整備のあり方について、那覇市の整備の方向性、県の役割について意見交換を行う。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・那覇市の考える具体的整備計画等を確認し、県による支援のあり方等を検討する。

4 取組の改善案(Action)

・那覇市の考える具体的整備計画等について調整し沖縄県のスポーツ及び観光振興に寄与する施設をいかに整備していくか検討する。

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ウ	国際交流拠点の形成に向けた基盤の整備		
施策	①国際交流拠点形成に向けた受入機能の強化			
(施策の小項目)	○交流拠点施設等の整備			
主な取組	「空手道会館(仮称)」の整備	実施計画 記載頁	346	
対応する 主な課題	○国内外の各地域において、MICE誘致競争が年々拡大している中、既存施設では収容が不可能な1万人規模の会議開催案件も発生しており、国際的な交流拠点施設の整備が必要である。加えて、案内板の多言語表示化をはじめとした外国人の受入環境整備にも取り組む必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄伝統空手を独自の文化遺産として保存・継承・発展させるとともに、国際大会等の開催や空手研修生の受入体制の強化を図り、「空手発祥の地・沖縄」を国内外に発信するための拠点として、空手道会館(仮称)を建設する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	基本計画						県
	測量・土質調査						
	基本設計	実施設計					
		建設工事等		供用開始			
					→		
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
空手道会館(仮称)基本計画等策定事業	2,252,960	38,387	空手道会館に係る用地取得にかかる不動産鑑定および、現存する建築物等の物件補償調査などを行った。加えて当該会館の管理運営に係る調査についても実施した。	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
—			—	—
推進状況	平成25年度取組の効果			
やや遅れ	空手道会館(仮称)建設にあたり用地取得などの課題に対して、地元の豊見城市とも連携を図りながら、用地取得に向けた不動産鑑定および、現存する建築物等の物件補償調査などを行った。加えて当該会館の管理運営に係る調査についても実施したが、空手道会館(仮称)建設予定地の用地取得が難航したためやや遅れとなった。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
空手道会館(仮称)建設事業	1,408,000 (2,198,157)	空手道会館建設予定地の用地購入、建設工事の着工 公共施設の運営権導入の検討、展示品調査収集検討 指定管理者管理条例の制定等	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

空手道会館建設にあたり用地取得などにかかる課題について、地元の豊見城市とも連携しながら、諸問題の解決に取り組んできたところである。
同会館の運営にあたり、管理運営体制及び収支計画等の検討も行ったところである。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
県外・海外からの空手関係者来訪数	調査予定	—	増加	—	—
状況説明	平成26年度中に用地取得、工事の着工を行い、平成28年度4月に供用開始を目指している。供用開始により、空手道会館(仮称)を拠点として「空手発祥の地・沖縄」を世界に発信するとともに、国際大会等の開催や空手研修生の受入体制の強化を図ることにより、世界中の空手愛好家の来訪を促進できると考えている。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- ・平成25年度中に空手道会館管理運営及び展示計画策定の調査委託を実施や、用地購入にかかる不動産鑑定、物件補償など行った。
- ・建設用地の買収を行うにあたり、取得予定地の一部が8名の共有地となっており、一部の名義人に相続が発生したことなどの不測の事態により用地購入、物件補償は次年度へ繰越となった。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・平成27年度末の供用開始までタイトなスケジュールのため、随時、進捗を確認し、会館完成までのスケジュール管理を密に行う必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・平成26年は前年度からの繰越予算で用地購入、物件補償契約を9月までに完了させ、空手道会館建設の11月工事着工を目指す。それと平行して、空手道会館の展示設計を12月までに完了させ、空手道会館の管理運営、展示品調査収集業務についても推進し、利用者に良好なサービスが提供できるよう取り組んでいく。

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ウ	国際交流拠点の形成に向けた基盤の整備		
施策	①国際交流拠点形成に向けた受入機能の強化			
(施策の小項目)	○交流拠点施設等の整備			
主な取組	世界水準の大規模MICE施設の整備	実施計画 記載頁	346	
対応する 主な課題	○国内外の各地域において、MICE誘致競争が年々拡大している中、既存施設では収容が不可能な1万人規模の会議開催案件も発生しており、国際的な交流拠点施設の整備が必要である。加えて、案内板の多言語表示化をはじめとした外国人の受入環境整備にも取り組む必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	これまで、施設規模が原因で誘致が実現していなかった中～大型の国内・海外のMICE及びその参加者について、沖縄への誘致を促進するため、大型MICE施設を整備する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	調査・検討	基本設計	実施設計	工事		H29年 供用予定	県
担当部課	文化観光スポーツ部 観光振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
戦略的MICE誘致促進事業	353,963	316,916	大型MICE施設についてさらに詳細な需要推計等を実施し、有識者の意見を踏まえて基本構想を策定した。	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
—			—	—
推進状況	平成25年度取組の効果			
やや遅れ	整備費用の圧縮を図ることを目的に効率的な整備・運営手法を検討した。また、建設地の選定に当たり、県内の要望等も踏まえ精査を行った。 これらの検討を加えることで、今後の整備方針の指針となる基本構想の策定を行った。 基本構想策定により沖縄の特性を活かしたMICEの誘致・開催を可能とする大型MICE施設の整備に向け、新規MICE施設に想定される需要推計や施設整備や周辺の街づくりの基本的方針等を取りまとめた。 平成25年度有識者委員会で候補地市町村の街づくりに対する考え方を確認すべきとのことで、建設地の選定がやや遅れている。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
大型MICE受入環境整備事業	30,903	既存施設では対応できない大規模MICEの誘致を促進するため、基本構想を踏まえ、施設整備方式や整備条件等の調査を行うため、「実施設計」は平成28年度となる。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

大型MICE施設についてさらに詳細な需要推計等を実施し、有識者の意見を踏まえて基本構想を策定した。
 大型MICE施設については、展示会、コンサート等多様なイベントに対応できる展示場、企業の報奨旅行のディナー等に対応可能な多目的ホール、学会開催時の分科会等に対応できる中小会議室を建設する。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
MICE開催件数 MICE参加者数	486件 66,195人 (23年度)	557件 89,831人 (25年度)	786件 136,195人 (28年)	↗	2,337件 156,914人 (24年度)
状況説明	当初計画から3年遅れとなる平成32年度に大型MICE施設共用開始を目指す。 平成24年度よりMICE開催件数は26件の増(531件→557件)、MICE参加者数は3,878人の増(85,953人→89,831人)となった。 大型MICE施設の供用開始により、開催件数約150件増、参加者数:約77万人増の見込みである。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- ・MICEの開催ニーズは年々多種多様化してきており、今後も変化を続けていくものと見込まれるが、主催者・参加者の観点から、MICE施設へのアクセシビリティについては、今後も変わらず利便性が求められる。
- ・県内業者や県民におけるMICE受入体制が整備されていない。
- ・大型MICE施設整備に向け利用者満足を得られる施設水準の実現と整備費用最適化を図る。
- ・地域が一体となり周辺エリアでのホテル、商業施設の集積、交通渋滞の緩和策を講じる必要がある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・施設の規模や形態は第一の重要事項であるが、施設単体でなく、MICEエリアとして都市計画等の面からも利便性や機能性を検討することが必要である。
- ・PPP等民間活用の導入可能性等の調査を行い、整備運営手法を決定する。

4 取組の改善案(Action)

- ・建設地のある自治体との協働体制を構築するとともに、MICE施設整備民活導入可能性検討調査を委託し、利用者満足を得られる施設水準の実現と整備費用最適化に向け詳細に検討していく。